

# こころを折らないで

—父と娘の会話—



HIDEHIRO UEOKA

上岡秀拓  
絵

KAZUNORI OZUMI

小住和徳  
文



# こころを折らないで

—父と娘の会話—

小住和徳  
文  
上岡秀拓  
絵



パパ

「ちょっと難しいかも知れないけれど、  
まず人生の話から始めようね。」

この絵を見てごらん」

人生のゴール

かなえ

「これ、人生のゴールって  
書いているけど、何か変だなあ。」

おじいちゃんやおばあちゃんは分かるけど、

どうして小さな子供やお姉ちゃんがゴールのところにいるの？」

パパ

「そうだよね。でも、皆が皆、年をとってから人生のゴールを迎える  
わけではないんだ。病気や事故で人生のゴールを迎えることもあるし、

この子のように生まれつきの重い病気があったりして、中には病院から  
一歩も外に出ることなく人生を終えることもあるんだ」

かなえ

「じゃあ、いろんな美味しいものも食べることができないし、  
きれいな景色を見ることもできないってこと？」

せっかくこの地球に生まれてきたのに、そんなの絶対に不公平だよ！」

パパ

「かなえの言うとおりだと思う。でもそれも事実なんだ」



かなえ 「そういえば、世界中にはその日の食べ物にも

困っている子供たちが沢山いるって、聞いたことがある」

パパ

「そうだね。病気だけじゃなく、飢えや戦争で、

その日を生きたことさえ大変な子供たちが沢山いるんだ。

中には自分の親から暴力を受けて死んでいく

子供たちもいる」

かなえ

「かなえは、『生きる』ことは当たり前だと

思っていたけど、そうじゃないんだね」

パパ

「そうした子供たちにとっては、

一日一日を生きたことこそが、勲章なんだ」

かなえ

「生きることが勲章かア。さすがパパ、いいこと言うね。

かなえも思っていたんだけど、大人の方がよく勲章とか

お金とか欲しがるでしょ。そういう人って、あまり尊敬できないな。

そんなことより、生き方のほうが、ずーっと大切だと思うんだ。

どうしてそんなに、勲章とかお金とか欲しがるの？」

パパ 「人間には、誰でも名誉欲や金銭欲と

いうのがある。それ自体は悪いこと

じゃない。生きてゆく糧や活力にな

ることもある。でも、それが強すぎて、

外のことが見えなくなってしまうの

は問題だね。勲章とかお金を一杯た

めこんでも、あの世には持っていか

ないからね。もし『あの世』がある

としたら、神様が認めてくれるのは、

かなえが言った『生き方』のほうか

も知れないね」





続きは  
完成版で  
お楽しみ下さい。